

沿岸域における地域資源を活用した魅力的な空間形成に関する取り組み



沿岸海洋・防災研究部 沿岸域システム研究室 室長 上島 顕司

(キーワード) 人口減少、沿岸域、地域振興

3.

生産性革命

1. 背景

高度成長期以降、港における魅力的な空間形成として、いわゆるウォーターフロント開発が行われてきた。昨今でも、大型クルーズ船の寄港に伴う来訪客の増加等に伴い、港における魅力的な空間形成が重要な課題となってきた。さらに、高潮・津波対策等、防災対策における護岸整備等に際しても、地域資源を活用した空間形成の観点を持った整備が重要となってくる。また、その際には高齢者の増加等に伴い、ユニバーサルデザインの推進も必要であるが、港湾・海岸では未だ課題も多く、その解決も必要となる。このため、当研究室では、人口減少時代における地域振興への貢献のためにも、沿岸域における地域資源を活用した魅力的な空間形成に関する研究に取り組んでいる。

2. 今年度の取り組み

ウォーターフロント開発以降の最近の事例について分析した。最近の動向としては①倉庫を活用したリノベーション、②防災機能と地域資源の活用との調和・連携(写真1)、③歴史的な遺産、資産の活用(写真2)、④水辺、遊覧船の活用が挙げられる。

次に、クルーズ来訪客にとって魅力的な港の空間形成を図るために参考となる先進事例等の分析を行ない、考慮すべき視点を整理した。船の視点では、①海上におけるシーケンス景観(船から眺められる連続的な景観)、②港外→港内のアプローチ景観、③着岸、④港から市街地へのアクセスを挙げることができる。これに対応し、港まち側では、①あたたかも船を出迎えているような、海や船を意識したまちのつくり、②船から港まちや港の資源が見える、市街地に近い、町から船が見えるといった港まちの空

間構成の観点からの着岸位置等の検討、③岸壁背後のレイアウト、④working waterfront(活動している港)を含めた港らしい地域資源の発掘及び資源のネットワーク化が重要となる。

また、高齢者、障害者等の利用を想定した整備のため、ユニバーサルデザインの観点からみた港湾、海岸における課題の把握・分析を行った。

さらに、ケーススタディとして、地方の港湾を対象に、みなとまちづくりに係る検討を進めるとともに、みなとまちの地域資源を活用した地域振興・空間形成のあり方について講演した。今後、有識者による研究会を立ち上げ、情報発信に努めることとしている。



写真1 高潮対策で整備した護岸上がプロムナードとなっている事例(地域資源に対する新たな視点場となっている(別府港))



写真2 臨港貨物線跡をプロムナードに活用した事例(横浜港)